

ティンバ ライズなど 木橋の魅力発信

セミナーに建築士ら70人出席

一般社団法人ランド
スケープアーキテクト
連盟(JLAU)とN

PO法人チームティン
バライズは11月24日、
セミナー「橋がたなく」

を東京・浜
松町のコト
ブD. Iセ
ンター2階
ホールで開
催。両団体
の会員や建
築士、設計
士など約70
人が出席し
た。

当日はベ
ルギーを本

拠地に橋梁デザインの
第一線で活躍するNe
y&Partners日本事
務所の渡辺竜一代表が
「人と場をつなぐCon
an Geometry」と題
して講演。続いて、テ
ィンバライズ木橋研究
会のメンバーが「木橋
がつなぐもの」をテー
マにトークライブを行
った。

方、建築物をつくる地
域の人とのコミュニケ
ーションなどについて
語った。

同氏は現在、長崎県
の出島で橋の架け替え
プロジェクトを進めて
おり、さまざまな形で
地元住民とかわって
いる。講演会では住民
との協働の一つとして
生まれた美しい和手ぬ
ぐいを紹介した。

後半のトークライブ
では、ティンバライズ
木橋研究会の木下勝茂
氏が、かつて日本に多
く存在した木橋を絵や
写真で解説しながら、
その魅力を語った。

以前は埼玉県・秩父
に何本もの木橋が存在
しており、その資料は
県の図書館に今も大切
に保管されている。美
しい形状が印象的な木
橋について同氏は「そ

17年度の国有林
モニターを募集
近畿中国森林局
近畿中国森林管理局
は2017年度「国有
林モニター」を募集し
ている。締め切りは来
年1月20日必着。希望
者は同局サイト(<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>)内
か郵送、FAXで申し
込む。応募者多数の場
合は抽選となる(結果
は来年3月中に送付)。

れらの資料を元に木橋
を復元することは可
能」と説明し、新たな
木橋の誕生にも期待を
寄せた。

今回募集するのは80
人程度で、期間は来年
4月から18年3月まで
の1年。モニターは国
有林に関するアンケ
ートへの回答、国有林野
の管理経営に関する意
見、要望などの提出、
モニター会議への出席
などを担う。

応募資格者は同局管
轄の2府12県在住で森
林・林業、国有林に関
心のある満16歳以上。
ただし国会および地方
議会の議員、地方公共